

平成 27 年度 2 次試験 再現答案 事例 I

<p>第1問</p>	<p>特性は、①技術難度が低く、台湾や中国の廉価製品と価格競争に陥りやすい点、②流行のスポーツに左右されやすく、人気に陰りが見られると、該当用品の市場が一転して縮小すること、である。</p>
<p>第2問</p>	<p>理由は、①技術難度が異なるため、関連会社として独立させることで専門化し、技術の高度化を図ろうとしたため、②事業に関する考え方そのものが異なっているため、既存組織の企業風土や価値観が新事業の障害とならないようにしたため、と考えられる。</p>
<p>第3問</p>	<p>課題は、①低価格競争に陥りやすいため、継続的に低コスト化や高付加価値化に取り組むこと、②新素材や代替技術による新製品が市場に投入されることで経営危機に陥らないよう、多角化等のリスク分散を図ること。</p>
<p>第4問</p>	<p>理由は、①製品が多岐に渡り、事業に対する考え方も異なる中、公平な評価指標による納得性高い評価が困難なため、②成長分野を模索するには長期的な視点が必要であり、短期的成果を重視する成果主義が適さないため。</p>
<p>第5問</p>	<p>留意点は、①優秀社員等の社内表彰制度等により、新たな価値観や組織文化の浸透を図ること、②地元自治体や大学と人材交流を行い、幅広い知識や経験を蓄積することで人材育成を図ること、である。</p>

平成 27 年度 2 次試験 再現答案 事例Ⅱ

<p>第1問(設問1)</p>	<p>ターゲットとすべき顧客層は①工場街跡地に開発されている高価格な高層マンションに入居する富裕層、②中高年層が売却した住宅街の土地・建物に入居する 30 歳～40 歳を中心とする子育て世代、である。</p>
<p>第1問(設問2)</p>	<p>業種は、①富裕層に対し、エステサロンやスパ施設、②子育て世代に対し、家事代行サービスや託児施設である。</p>
<p>第1問(設問3)</p>	<p>戦略は、①店舗共通で使える割引サービス、②施設や自宅への配送サービス、により相互利用を促すことである。</p>
<p>第2問</p>	<p>(a) 食器店 (b) 助言は、①農水産物、加工品の店舗にて、食材が映えるこだわりの食器を用いること、②農水産物、加工品店の横に店舗を設け、食材調理方法や盛り付け方法と共におすすめの食器情報を提供すること、である。</p>
<p>第3問(設問1)</p>	<p>県内のこだわりの商品を販売する店舗を誘致すべきである。マーケティング戦略は、比較的高価でも他店にはないこだわりの商品を品揃えすることで、低価格戦略をとる総合スーパーと差別化すること、である。</p>
<p>第3問(設問2)</p>	<p>新規イベントは朝市である。効果は①総合スーパーの営業時間外のため、集客効果が期待できること、②顧客と店主、店員が顔見知りとなり、関係性が強化されることで、店舗が商店街に定着すること、である。</p>

平成 27 年度 2 次試験 再現答案 事例Ⅲ

<p>第1問(設問1)</p>	<p>(1)強みは、鑄造行程の生産能力の高さと、機械加工、塗装行程新設による一貫生産行程 (2)強みは、鑄造技術に精通した社員で構成された営業部の提案営業による新市場開拓力</p>
<p>第1問(設問2)</p>	<p>メリットは、①農業機械部品、産業機械部品に要求される鑄造の技術力向上が期待できること、②自動車用部品を加えることで、季節変動の大きい生産負荷が平準化され、稼働率が向上すること、である。</p>
<p>第1問(設問3)</p>	<p>改善策は、ボトルネック行程である機械加工工程の生産効率を向上し、仕掛品在庫を減らすことで製造工程を効率化すること。具体的には、機械加工の段取り替え効率化や外段取り等を実施し、加工効率向上を図ること。</p>
<p>第2問</p>	<p>問題点は、機械加工工程の自動化が遅れている点である。改善策は、加工前後の製品運搬や、加工後の製品脱着等を設備投資や設備改善等により効率化し、機械加工工程の生産性向上を図ること、である。</p>
<p>第3問</p>	<p>受注情報、生産計画、資材発注、進捗情報を統合管理し、納期遅延の解消を図るべきである。その際、①生産計画情報を加工順決定や資材発注に活用すること、②受注情報や進捗情報を納期管理に活用すること、である。</p>
<p>第4問</p>	<p>強化すべき点は、技術力を向上させ、新たな市場を開拓することで、高付加価値化を図ること、である。理由は、①従業員の高齢化が進む中、低価格な海外製品と差別化し、低価格化競争を回避するため、②農業・産業機械部品にて軽量化、複雑化要求が強く、鑄造技術の向上が求められているため、である。</p>

平成 27 年度 2 次試験 再現答案 事例Ⅳ

第1問(設問1)①	(a) 売上高総利益率 (b) 17.67 (%)
第1問(設問1)②	(a) 売上債権回転率 (b) 4.89 (回)
第1問(設問1)③	(a) 負債比率 (b) 352.00 (%)
第1問(設問2)	特徴は、①高い金属加工技術が市場に評価されており、収益性が高い点、 ②現金回収期間が長く、運転資金を短期借入に頼っている点。
第2問(設問1)	売上高：1935 売上原価：1695 売上総利益：240 販売費及び一般管理費：300 営業損益：-60 経常損益：-71 税引前当期純損益：-71 法人税等：0 当期純損益：-71
第2問(設問2) (a)	傾向は、売上高の減少に対し、収益が大幅に悪化すること、である。
第2問(設問2) (b)	原因は、固定費が大きく、売上変動に対し、収益変動の大きいハイリスク・ハイリターンの収益構造となっているため、である。
第2問(設問3) (1)	(a) 金額 2241 百万円 (b) $(1020+120+11+100)/(1-(950/2150)) = 2241$
第2問(設問3) (2)	(a) 金額 1756 百万円 (b) 固定費を FC と置くと、 $(FC + 100)/(1 - (950/2150)) = 1935$ よって、FC = 980 このときの損益分岐点売上高は、 $980 / (1 - (950/2150)) = 1756$
第3問(設問1) ケース1	20.5 百万円、24.0 百万円、30.0 百万円
第3問(設問1) ケース2	13.5 百万円、17.0 百万円、20.0 百万円

第3問(設問2)	(a) 正味現在価値 Z:41.0 百万円、E:-20.9 百万円 (b) プロジェクト Z
第3問(設問3)	回収期間を計算すると、 Z : 2 年以内 E : 3 年以上 よって、Zを採用すべきである
第4問(設問1)	デメリットは、生産数量の変動が大きく、収益が不安定になる点。
第4問(設問2)	意義は、需要変動の異なる製品を組み合わせることでリスク低減できる点。